

「いつも」と「もしも」を繋ぐ地形の屋根

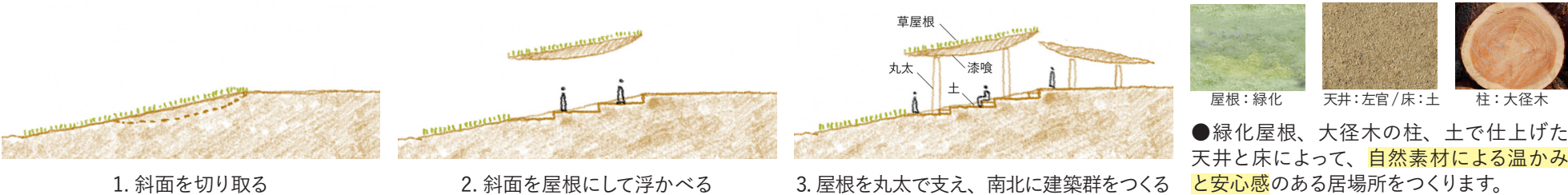
- 斜面と建築による環境に溶け込んだ地域のシンボル -

<いつも>

交流・防災施設の「いつも」と「もしも」の機能を考慮した平面計画

周囲に溶け込む風景と人々の居場所を一体でつくる

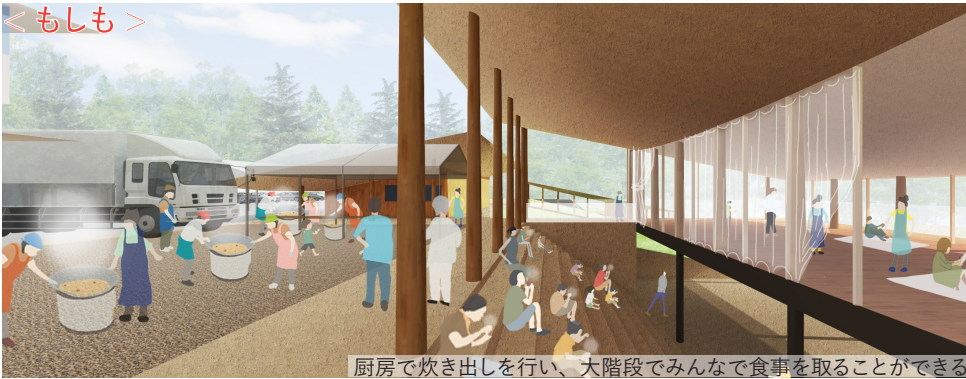
- 緩やかな勾配の斜面をつくることで、平時と有事共に障壁となる体育館とグラウンドレベルの段差を解消し、敷地全体を一体的に活用できるようにします。
- 斜面を切り取って持ち上げることで屋根を作り、地形と建築が融合した風景と、地域の人々のための心地良い居場所を生み出します。
- 南北の分棟配置によって敷地内の各機能をつなぎ、利便性を向上させます。



<もしも>



<もしも>



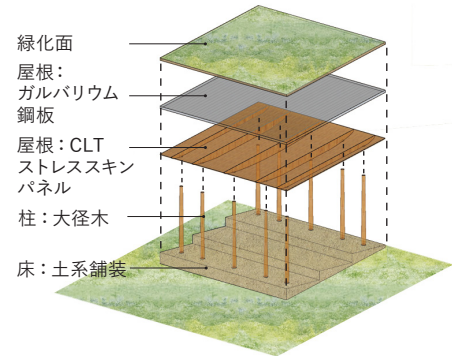
<いつも>



県産材の活用・環境配慮・省エネ・コストを考慮した計画

県産材料を活用した構造形式

- 柱に大径木を用い根元を剛接合、柱頭をピン接合にすることでプレースの無い開放的な空間を実現します。
- 屋根は最大幅 2700mm、長さ 12m のストレススキンパネルとし、落とし込み施工とすることで工期の短縮を図ります。



草屋根による熱負荷の軽減

- 植物による蒸散効果により、屋根と天井面の熱負荷を軽減します。
- 屋根面に散水設備を組み込みローメンテナンス可能な工法を採用します。
- 雨水を集水し、散水や中水に活用し、ランニングコストの削減を図ます。

